

2024年度 学校関係者評価

設置者確認 2025年 3月18日 理事長 角田 修一 印



校務分掌	重点目標	具体的取り組み	A～C	自己評価	A～C	学校関係者評価
庶務課	全般的な業務内容の明文化と慣例の見直し	なるべくたくさんの職員が業務に関われるよう、マニュアル化できるものはして、新しい職員も安心して取り組めるようにし、仕事の偏りを減らしたい。慣例的にならないように今の業務内容を更に見直し、よりよく出来るよう整えていきたい。	B	全体的には各担当で責任を持って滞りなく業務を進められよかった。特に、全体の動きに関わることにについては、その都度確認しながら主体的に取り組めるようになってきている。反面、年度当初に担当を決めた個々の細かい業務についての担当者間の連携がとれていない部分もあった。保護者会役員会は担当者間で確認しながら業務の分担もできたことにより仕事の偏りが軽減された。今の業務内容の見直しについては、具体的には手をつけられなかった。	B	自己評価がBとなる理由の大きな点として業務内容の見直しができていることがあるだろう。近年、見直しについて触れることが多いが実践できていない。無理にでも組み込んでいかないと今後も流れてしまうだろう。PDCAサイクルを用いて見直ししていく必要もある。
教務課	新しい授業形態や学習環境及び学習教材の工夫 学びの時間の確保 基礎学力の定着 魅力ある授業の構築	科目によって適切な教材や機材を検討し、より魅力ある授業の展開を目指す。また放課後の補習に頼らず自学自習を進める力を養いたい。昨年来コロナ禍も収束を迎え、学校行事等についてもほぼ縮小せず行うことができている。生活環境課と協働しながら行事や各活動も活発に行いたい。 特別タイムなどでは、読む力や書く力など基礎的な学習を積み重ね、それぞれに合った学びが提供できるようにしたい。 それぞれの授業を見学し合い、意見を伝え合ったり、指導を仰いだりできる機会を設け、より魅力的な授業が展開できるよう心がける。	A	補習はほとんど行わず家庭学習を重点的に行うような指導を心がけた。意欲の喚起など課題は残るが提示したものはよくやってきたように思う。検定対策週間など各クラスでの呼びかけなど、教務課を中心に呼びかけをしていきつつあったがあまり定着しなかったかもしれない。 昨年来飲食物の販売なども再開され、大きな賑わいを見せた。学校祭のみならず各学校行事で生徒たちが主体的に制作や販売に関わりながら楽しさと自信を得ていたように思う。学校行事に大きな意味を見いだしている生徒も多く、大きな成長が見られた。 特別タイムは例年と変わらず、コツコツと続けることができた。朝の読み聞かせなど生徒たちも楽しみに過ごせていたと思う。 授業見学は今年度あまり実施することができなかった。校務や授業の準備などで時間が取り辛い印象もある。それぞれ魅力的な授業を展開できるよう促したい。	A	教員の授業見学が実施できなかった理由が突発的か状態化しているものなのかははっきりさせ、その実情にあった対応が必要。
総務課	私学法改正に伴う寄付行為の変更と理事・評議員の変更を滞りなく行う。	私学振興室からのスケジュールに合わせ寄付行為の変更事前相談を8月までに行う。 9月に理事会・評議員会を臨時開催し認可してもらい、改正後の理事・評議員を決定する。 10月以降寄付行為変更認可申請を行う。 来年度5月に理事・評議員の変更を行い変更届を提出する。これらの作業を他の業務に影響が出ないように進めたい。	B	寄附行為の変更についてはスケジュール通りに進めることができた。改正後の理事・評議員については今年度3月の理事会評議員会で話し合いたい。来年度5月には全理事評議委員の新体制が決定するので理事長登記などの手続きを引き続き間違いなく行なっていきたい。また実際に運営方法が変わる2026年の定時評議員会のタイミングについても間違いなく行なっていきたい。今年度の理事会評議員会のスケジュールについて昨年度3月に郵便でお知らせをしたが一部理事会評議員会の一か月前の開催通知と日程が異なったため参加できなかった評議員がいた。今後間違いなくお知らせをしていきたい。	B	理事会・評議員会、学校関係者評価委員会の開催通知が間近だったので、早い方が予定が立てやすい。開催日時だけでも先にメールで知れると良い。
入試課	より多くの方に本校の取り組みを知っていただく。 入試の流れを改定する。	中学3年生のみでなく、2年生以下の中学生やその保護者、または高校に進学したものの上手いかなかった生徒や保護者も対象に働きかけや説明会を開いていく。 入試について、中学校の先生の負担を減らしつつ情報交換がしっかり行えるよう、事前相談から出願、合格発表までの流れを見直す。調査書も形式を変更する。 ホームページやフェイスブック以外の、今の中学生やその保護者がよく利用しているであろうSNSで情報を発信できるよう仕組みを整える。	B	理事長、学校長による研修会を、小中学校の先生方対象に行った。また、島田市外の中学校へも研修会の宣伝をしたり、中学2年生以下の生徒や保護者対象の説明会を行ったりするなど、昨年度までとは違った取り組みを行った。少しずつ認知度も広がってきているように感じるが、今年度も入学者数は減少傾向にあった。通信制高校を選択していく傾向があることやそういった学校の受験時期の早さ、不登校生徒の保護者の動きが早まってきていること等、入学者数に結びつかない原因のひとつとして考えられるが、本校の強みである、通ってきて人と関わること、学力だけでなく心を育てることをぶらすことなく、今後も広報活動を工夫したい。また、年明けからインスタグラムのアカウントを作成し、FBと連動して学校の様子を発信することができた。 入試の流れについては、出願方法や合格発表、調査書の書式について変更を行った。大きな混乱はなかったが、よりスムーズに行うことができるよう、反省を生かしながら少しずつ改善していきたい。	B	通信を選択する生徒が増えてきている。 入試の早期化のなかで1月入試は遅い方。早い段階でチャレンジできる機会があるとその子自身のためにもなるし保護者の安心感もある。合格することで、また挑戦してみようと動き出せることもある。 8月にインターンシップを行ってみてはどうか。 いきなり全日制は親としては心配でブレーキになってしまう。 島実のことは中学の先生が教えてくれたため、そうしたつながりを築いていけるとよい。 入学後1年でどのような変化があったのかがわかると安心。
進路課	進路先への定着率を調査し、進路指導に活用する	卒業後2年目くらいの生徒を対象に、進路先での定着率を電話にて調査し、本校在籍当時の状況や特性と合わせて進路指導が適切であったかを検討することで、今年度の進路指導に活かす。また卒業時点で就労支援の利用を予定していた卒業生がどの程度、就職に結びついているのかも併せて調査し、支援が必要な生徒が就労支援と職業訓練のどちらに合っているのかについて検討する際の材料とする。	B	卒業後の進路の定着状況の調査については、年度の早い段階では行うことができず、今年度の進路指導には生かせなかった。年度終わり3月に一斉メールを使ってアンケートを実施しており、次年度以降の進路指導に生かせる要素を探していきたいと考えている。また支援を要する生徒の進路については、今年度はあしたか職業訓練校へ進学を決めた者、静岡障害者職業センターで相談をしている者、手帳枠の就職先を保護者主導で探している者、障害者の自立支援と就労支援を4年間かけて行う福祉型大学に通う者など、様々だった。どの場合も保護者とよく連絡を取りながら時間をかけて選んできたため、それぞれに合った形の進路が選べたのではないと思われる。今年度の進路結果より、県外進学者の減少からコロナ禍以降続く経済面の厳しさ、障害を持つ生徒たちの受け入れ先の変化が見られた。就職については売り手市場のため新規開拓が出来た。社会情勢を見ながら指導の方向性も柔軟に対応できるようにしていきたい。	B	進路説明会で伝えられていることは進路を考えるにあたって助けになる。 LHRでキャリアデザインを扱ってみるのはどうか。 アンケートについては、どのくらいのデータが集まり、信憑性を持てるか。回答にあたっては、アンケートフォームの見直しなど回答しやすい形を考えられないか。また、保護者や教員がどう評価しているかわかるとよい。
保健課	生徒の安心して過ごせる環境を整備し、心と身体の健康を守る	安心して過ごせる環境を整える。季節に応じた情報を発信し健康づくりに役立ててもらう。生徒の個々の事情を担任と情報を共有し、安心して学校生活を送れるよう配慮する。また心のケアも大切にしたい。	A	安心できる環境作りとして、体調不良や気持ちの面で事務室に休みに来る生徒に対し、その時の状況によって休む場所や室温、明るさなどに配慮した。夏の熱中症対策として塩分タブレットやアイスノンなどを常備し予防に力を入れた。感染症対策としてコロナウイルスやインフルエンザの簡易キットを常備し学校内での蔓延防止を心がけた。事務室前の小黑板も継続して季節や天候に応じた情報発信をした。休んでいるときの生徒の様子や個々の状況は意識して担任と共有することができたことは、保護者や生徒の安心や心のケアにつながったのではないか。	A	熱中症などになったときの対応は十分できているだろう。しかし、近年はゴールデンウィーク明けから暑い日が多くなるため、普段から規則正しい生活など呼びかけや掲示物で伝えていけるとよい。
生活環境課	自遊の森の管理、活用と周辺の整備	自遊の森の管理や活用方法を打ち合わせし、年間を通して生徒、職員で維持管理していく。自遊の森周辺の整備計画を立て、東棟横の古いフェンスの撤去や、南庭奥の草木の整備、駐輪場前の整備など、長期的に整備を進めたい。自遊の森は特別タイムやLHR、特別時間割を活用して計画的に手入れする。4月に3年生ボランティアを募り職員と活動した。午後のみではあったものの、屋外の多くの場所を手入れすることができた。3年生も意欲的に楽しんで作業してくれ大変良かった。今後もボランティア活動を企画したい。自遊の森は、授業や休み時間、イベントでどう活用していくか、課が主導しながら職員全体でアイデアを出し合い、有効に、楽しく活用できるようにする。近年暑さも増しているため、自遊の森や屋外の暑さ対策も検討したい。	A	自遊の森の管理は、水やり、芝刈り等、周辺の草刈りなど、職員で分担しながら年間を通して維持、管理してることができた。自遊祭の期間は生徒にも協力を呼びかけ水やりと一緒に実施した。自遊祭で、ベンチ、生徒机を改造したテーブル、屋根を創ったり、奉仕作業やクリスマス会準備期間、また、3年生ボランティア活動でベンチを作成したりと、自遊の森の備品を生徒と職員で協力して作成し設置した。手作りのものがだんだんと増えてきて大変感じが良く、お昼休み等で生徒たちが利用している姿を多く見かけるようになった。自遊の森では7月の夕涼み会、自遊祭のイベントで活用し、大変良い雰囲気で行事を行うことができた。夏場から自遊祭の時期にかけてかなり屋外が暑くなり、テントやタープを購入し設置した。過ごしやすく、おしゃれな感じにもなり大変良かった。近年の暑さでは日陰がない場所ではとても過ごせず、イベントの開催時期や時間帯、暑さ対策をさらに考えていく必要があると感じた。今年度は卒業式の日があたり前なく、二部会である『遊子会』で自遊の森を活用した。卒業生企画の合唱をステージ上で行ったり、職員と卒業生、保護者の握手企画も行ったり、今までにない形で遊子会が実現できた。お昼も保護者の方が自遊の森で伸び伸び昼食を取る姿が大変感じが良かった。イベントや日常生活、授業などでどう活用できるか、より過ごしやすくするため、今後もさらにアイデアを出し実践していきたい。	A	自遊の森は明るく、開放的でデニスコートのときと比べてもとても良い雰囲気。前を通るたびによい印象を感じている。 芝生の水やりや草刈りなど大変かもしれないが、雰囲気が良い。 高いところが危ないように注意した方が良いか。
管理課	職員・生徒の意識を高め日頃から生活環境の維持に目を向ける	生活環境課と共同して校内環境を整えるとともに、修繕が必要な箇所について課として検討する。 昨年度から8月、12月、3月に修繕箇所等を点検をし記録している。継続していきたい。管理課だけでなく全職員及び生徒の手も借りながら、安全で清潔な学習環境を確保したい。 工事が必要になりそうな箇所については早めに総務課や経理と相談し計画を立てていきたい。	A	修繕箇所の点検は引き続き行うことができた。タイミング的に他の行事や仕事を立て込むことも多く、手が空く職員で計画的に時間をかけて行うようにした。声を掛け合い時間を有効に使いながら行うことができたように思う。 今年度も大きな破損もなく気がついたところを少しずつ修繕することができた。女子トイレの壁も業者の方に入って直すことができた。 講堂のエアコンなどまだ修繕できていない箇所もあるが業者などへの依頼はスムーズだったかと思う。	A	在学中に危ないと感じることや行き届いていないと感じることはなかった。そこで生活していくと慣れていく。